

ROTARY CLUB OF

KANAZAWA-NORTH



金沢北ロータリークラブ

例会日：木曜日 12:30～13:30

例会場：金沢市東山1-38-30・松魚亭

TEL <0762> 52-2271

事務局：金沢市尾山町9-13・金沢商工会議所

TEL <0762> 22-2525

会長：沢田哲夫 幹事：米沢修一

情報委員長：春田義正

1985・10月3日 第300号

「味と味わい」

お話し主幹 金子 健樹氏



「飽食の時代」と言われて久しい現代。戦後の食料難を体験された方なら特に強く感じられると思うのですが、物不足から物過剰へ、量の充足から質のアップへと、時代は大きく変化してきました。そして近年では、たとえば企業が差別化やCIの導入に本腰を入れ始めたことでもわかるとおり、製品そのものの質から、そこに伴うプラスアルファが重要視される時代となってきました。つまり、クオリティからテイスティへ。食で言えば、味覚そのものだけでなく、それを包みこむ全体の味わいといったものが大事にされはじめてきたように思われます。

実は先日、金沢の飲食店を徹底的に取材し、そこからおいしい店150軒を選定するという仕事をいたしました。皆様にもご想像いただけるとは思いますが、全体的に食のレベルが高い金沢で150軒に店を絞る作業は、味覚に対する個人の好みの問題もあり非常に困難を極めるものでした。そこで私はその選定にあたり4つのポイントを設けました。まず第一に、料理そのものの持つ味。次に施設、そして経営者の姿勢や従業員のしつけといった人からの観点、最後に満足の度合いにもよりますが料金。と、以上の4点を総合して自分なりの判断から結論を出しました。しかし、取材をしてみて思ったことですが、この他にやはりプラスアルファと言いますか、たとえばさりげなく四季折々の花を飾るといような、過不足なく演出されたキメの細かさ、心づくしのおもてなしというものが重要なポイントとしてあり、それらすべてが総合的な値となって味わいをかもし出しているという風に感じました。

私は、味覚というものは文化と呼んでもいいものだと確信しています。これは、芸術や工芸などハイセンスなレベルの文化の周辺にある、言わば生活文化の華だと思いますし、外と比較して非常に優れたこの食文化を、いま一度金沢に住む人に再認識してもらいたいとも思っています。

最後に、金沢全体の今後にはふれますと、いま以上に観光客を呼ぼうとするにはやはり味だけでは弱く、ここでも味わいが重要になってくるだろうと思われます。つまり、金大移転後の金沢城の問題にしても、城そのものだけに目を奪われるのではなく、たとえばこれから8年後に500周年を迎える人民の国、加賀の一向一揆などというすごい隠し味があるのを生かせないものかと思うわけです。宗教や心の平和といった人間本来の求めているものに金沢がどう対応していくかというようなスケールの大きなポイントをとりまいて、その裾野にキラ星のような味わいがちりばめられているということ。それがもう一段、金沢の魅力をレベルアップさせることになるのではないかと思います。

さらに金沢の魅力をいかしていくためにも、味わいの持つ魅力をもっとクローズアップしていくことが必要だと思います。

—金沢北RC例会講話より— (文責 大場吉美)

韓国南光州RC訪問報告

会長 沢田 哲夫

韓国南光州RCと金沢北RCとが姉妹結縁協定を行ってからすでに3年の期間が経過した。今般、両RCが協議の上、この協定を更新することになったので、その調印式を挙げるため、当クラブの会長、幹事、国際奉仕委員長、その他会員及び夫人など合計17名が韓国を訪問した次第である。

9月22日午前4時一同観光バスに乗って金沢市武蔵ヶ辻スカイホテル前より出発。午前8時大阪空港着、午前10時45分大阪空港発の日航機で正午頃韓国釜山空港に到着、空港近くのレストランで昼食をとり、午後2時頃予約してあった観光バスで同所を出発。午後6時半頃光州市に到着。南光州RCの会員諸君の出迎えを受け、ホテル錦繡荘に投宿した。その夜は同ホテルの宴会場で盛大な歓迎会が開かれ、会長はクラブを代表して、南光州RCからの花束の贈呈を受けた。その夜は席を改め、二次会も行われた。

翌日は午前9時頃より南光州RCの会員諸君の案内で無等山という山の遊園地を訪れ、リフトやモノレールなどに乗って山頂にのぼり、同所より市内を望見した。正午、光州観光ホテル内で開催された南光州RCの例会に一同出席、同所で双方会員全員及び夫人の紹介があり、協定更新の調印式、贈答品の授受などが行われた。すべてが滞りなく終了したのは午後2時半頃。それより南光州RC会員諸君とお別れの挨拶をし、一同バスに乗ってソウルに向った。ソウルに到着したのは午後7時半頃。レストランで夕食をとり、午後九時頃ホテルソウルオリンピックに投宿した。翌24日は午前9時頃ホテルを出発。ソウル市内の景福宮、博物館などを見学し、バスの中からソウルの市内を視察し、2時頃ソウル空港に到着、午後4時50分発の日航機で大阪空港に午後5時半頃到着。会員の一部はこれより別行動をとったが、大部分は観光バスで金沢に帰宅、金沢着の時刻は午後10時過ぎであった。以上が旅行の概略である。

光州では、南光州RCの金竜一会長、朴鐘珍総務(幹事に相当)、鞠瓊根会員、高在鐸会員、金在玟会員、李元基会員その他多くの方々に一方ならぬ御厚誼に浴したことを付記し、最後にこれらの皆さんに深甚な感謝の意と最大の敬意とを表明して、この稿を結ぶ。

記 念 辞

韓国・南光州ロータリークラブ会長 金 龍 一

尊敬する金沢北ロータリークラブの会長沢田哲夫様、又訪韓姉妹結縁式に参加する金沢北RCの会員及び令夫人又本クラブの皆様、本会は1982年11月金沢北ロータリークラブと長い間交流の末、姉妹結縁を結びし以来訪問と友好を通じてより親密な交分をもちまして、今成熟した国際間の奉仕と親善のため再姉妹結縁を結ぶことを本人は心から歓迎する次第であります。

85~86年度国際RC会長EDWARD F. CADMANの標語“YOU ARE THE KEY.”は両国会員みずからの地域社会と国際間の親善と奉仕がそのまま私から始まるという確認を深くしていると思います。そういう点において、ここに参席している金沢北RC会員又本クラブ会員は“YOU ARE THE KEY.”の国際RC会長の標語を誠実に履行している会員であると確信する次第であります。

金沢北RC会員並びに本クラブ会員の皆様!

私は就任初の「人間的にむつまじく行くロータリー精神を誠実に奉仕する」ことを提言しました。今、一次姉妹結縁を成功的に国際間の格式と条約を充実して、今日二次姉妹結縁から実質的に会員相互間の職業、趣味、宗教等を通して人間的交流が結ばれる事を希望して両国訪問も民泊まで発展して会員間はもちろん家族までが親善をなしうる様希望して止みません。

その間、再姉妹結縁まで書信連絡、国際電話、訪韓計画等御苦勞して下さった国際奉仕委員長に感謝をささげ、残る旅程にも神様の御加護があります事、祈って止みません。

ありがとうございました。

(石丸訳)

南光州RC親善訪問について

国際奉仕委員長 高 畠 菊 丸

南光州RCと当RCが姉妹締結をしてはや3年の月日が流れました。この姉妹締結には最初の時私の息子が少年サッカーチームの一員として参加するなど個人的にも関係が深くなお今回、国際委員長として参加する事になったのもなにかの縁と感謝しています。

言葉の異なる二ヶ国間において友好的に心を通じさせる事のむずかしさを痛感しここまでの縁結びを達成された先人の苦労は大変なものだったろうと敬意を表するものです。

締結後、韓国からはクラブの10周年記念式典に参加するなど友好的に交流が行なわれてきたわけですが、何と言っても近いようで外国の事ひんぱんに交流する事もむずかしく長期展望にたたざるをえない、当初より二国間の交流はあわてず一步一步進めて行く、ロータリー精神の奉仕と友愛の基本に基づき、相互理解を深める事で世界平和に少しでも貢献出来る事を願い、この事業を進めるものです。

今回も締結の前に相互の会長、幹事、国際委員長による意見交換により相互の意志の確認とあわてずゆっくり積み上げてゆく事を確約して再締結の調印をした。

光州側のもてなしは大変なものでゆきとどいた気くばりは日本の古里を感じさせる様な所もありまだ若い私には間接的に古き良き日本を見た様な気がしました。

尚、今回の再締結に関し、会長・幹事始め多くの方々の御参加と御協力に対し心から感謝すると共に事故もなく無事帰国出来ました事を心より喜ぶものです。

「姉妹提携」寸感

幹事 米 沢 修 一

調印式の朝、光州市を一望する山頂からは人口75万の街なみに霧(もや)が立ち籠めていた。

前日の南光州RC会員夫妻の心温まる歓待には一行17名、再会・初対面のメンバーの隔たることなく友情の絆を確かめ合い喜びをわかち合うことが出来た。3年前の調印式同様、式場でのそれはドラマであり両クラブの歴史の一ページを飾るに相応しいひとときであった。調印そのものは形式的なものであっても、そのことによって展開される相互理解と友好増進は今新らたな一歩として前進したことには間違いない。

最近両国で国民の外交意識が相次いで発表された。親近感から言えば韓国の日本に対する目はまだ厳しいのが現実である。しかし韓国に対する好感度が過去最高に達した事も又事実である。

この訪問を通して人と人との出会いは勿論熱意に対しては熱意で応える。大切さを感じたのは私一人ではなかったと思う。

感謝



私 の 名 刺

浅 田 禎 男



医薬品卸、株式会社中栄草栄堂の浅田でございます。日頃、色々
とご指導賜わり大変お世話になっております。越野民男先生ならび
に、私の前任でございます小林隆二様のご推薦を頂き、会員皆様
のお許しを得まして、このたび金沢北ロータリークラブのお仲間
に加えて頂けましたことを誠に光栄に存じておるものでございます。
どうぞ宜しくお願いいたします。

私どもが途中3ヶ月余りの軍隊生活を経まして学校（名古屋高等
商業……現在の名古屋大学経済学部）を出ましたのは、戦争の余燼

いまだ消えやらぬ昭和20年9月でございました。

当時、国民も虚脱状態、企業も将来の見透しを立てがたく求人どころではないという会社が殆んど
でありましたが、学校の方に参った数少い求人の中に武田薬品工業からの求人が来ておりました。

当時の食糧難などから「自宅(奈良)通勤がしたかったこと」と「医薬品なら和戦両様の構えのよ
うに思えたこと」から、応募、運よく入社。それ以来昨年6月、金沢に参ります迄の38年間そちら
の方に勤務いたしておりました。

終戦直後に就職した私どもの仲間は、特殊な混乱期でありましただけに、入社した会社がうまく
行かなかったり、或は激しいインフレの下で、サラリーマンでは一家を支え切れないというような
事情で2度・3度と転職を余儀なくされた人が極めて多い中で、これ迄無事に一つの会社に勤務し
つづけることが出来たのはラッキーだったと感謝しています。

ラッキーと云えば昭和23年3月末通勤途上の乗り合わせた超満員の近鉄電車が、ブレーキの故障
により、生駒山から大阪平野に向って猛スピードで暴走、先行車に追突転覆、多数の死傷者が出る
という大惨事に出くわしましたが、お蔭で耳の負傷程度で、こと無きを得ました。又、昭和55年5
月には盲腸炎をこじらせ腹膜炎の手術を受けましたが、これまた間一髪のところ、からき命を永
らえ、今日あるを得ました。あれやこれや考えますと、本当に危険が一杯の中で、危険をすりぬけ
るようにして生き延びて来れたと感慨深いものがございます。

今日まで福岡、松山、大阪、そして名古屋とまさしく台風の進路沿いに、しかも「次第に速度を
早めつつ」各地を駆けめぐって参りましたが、このたびご縁がございまして、百万石のお城下金沢
に腰を落ちつけさせて頂くこととなりました。

「出合いは運命だ」「誰に出合ったかによって運命は決まる」などと云われますが、このたび、金
沢北ロータリークラブにおきまして大変すばらしい方々に「お出合い」出来ましたことを、この上
ない喜びといたしております。

金沢に参りまして、日も浅くロータリークラブにつきましても、全く白紙のような状態ござい
ます。

色々魅力に溢れ、すばらしい特色があると承っております。金沢北ロータリークラブの諸先輩
のご指導のもとに私なりにせいぜい努力いたす心積りでございますので、くれぐれも宜しくお引き
廻し賜わりますよう、ひとえにお願い申しあげる次第でございます。

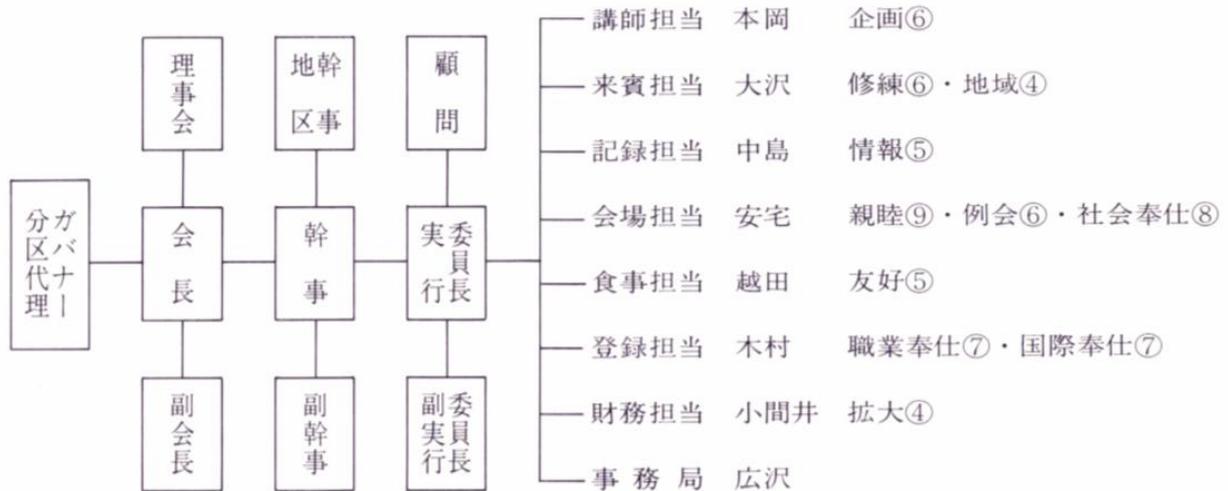
第261地区石川第一・第二分区I.G.F.

(インターシティゼネラルフォーラム)

日時 11月24日(日) 午後1時～5時

場所 石川地場産業センター

実行組織



※担当委員会・何人かに当日出席していただく。

役務分担 (主に当日までの役務分担)

- 講師担当……講師のリストup・講師の決定・折衝・送迎・接遇。
- 来賓担当……来賓のリストup・招待状・出欠確認・控室。
- 記録担当……記録方式の検討・器材準備。
- 会場担当……会場レイアウト・会場使用手続・駐車場関係。
- 食事担当……中食および飲物の準備。
- 登録担当……登録用諸文書・受付の準備・工程表の作成。
- 財務担当……概括予算の作成・執行チェック・決定書作成。

今週の花

吉山宥海
(9月26日)

すき
木 槿
われもこ
藤 袴
沢 桔 梗
宮城野萩紅白

